

経済分析手法の開発

日本産業連関ダイナミックモデル（JIDEA）の構築（更新）と活用

イ．調査の目的

本年度は、JIDEA7 の精緻化を図った。

ロ．調査結果の概要

平成 20 年度の日本産業連関経済モデルの開発研究で行った、簡易延長表データを延長表ベースに組み替えたデータを新データとして採用し、全面的に関数を推計し直した。また、価格決定方法を見直し、国内生産価格、輸出価格、輸入価格、それらから合成される国内需要デフレータを中間投入財に適用する方法を採用した。

さらに、投資関数の推計上重要な説明変数である資本ストックについて、メリーランド大学 INFORUM 研究所のクロッパー・アーモン教授の提唱する穴あきバケツ法による推計方法を採用し、投資関数を見直した。

これらの結果、推計関数の精度が向上し、解も安定するなど予測精度が高まった。

モデルを利用した業績・報告書には以下のものがある。

- ・サブプライム・ショックの雇用に対する影響
～ JIDEA モデルによるシミュレーション（季刊国際貿易と投資、2009 年春号）
- ・低下した日本の生産効率（季刊国際貿易と投資、2009 夏号）
- ・2020 年の日本産業の姿（季刊国際貿易と投資、2009 年夏号）
- ・2020 年日本の経済活動による CO2 排出予測
～ 環境分析用産業連関モデルを使用した試算～（季刊国際貿易と投資、2010 年春号）
- ・日経ビジネス 「ストップ！雇用崩壊」 2009 年 8.31 日号（予測結果提供）
- ・2009 年 9 月にラトビアのユルマナで開催された第 17 回 INFORUM 国際会議で、新モデルを利用した成果を、下記タイトルで発表した。
Introduction to JIDEA Base Line and Japanese Economy; Recent Simulation in JIDEA7.8